

■岩瀬忠震 海防・軍事・外交に優れ、〈ペリー来航〉直後に抜擢されて対外問題に貢献するも左遷・蟄居となり、早世。

いわせただなり

水野忠成老中1818= 江戸生れ。幕府の徒頭設楽貞夫の3男、_母は大学頭林述斎の娘、

日本外史・・・1827= 9歳：

高島砲術・・・1834=16歳：旗本岩瀬忠正の養子となり、

・・・・・・1836=18歳：

大塩平八郎乱1837=19歳：

阿部正弘首座1845=27歳：

北斎没・・・1849=31歳：幕府に出仕、

ペリー来航・1853=35歳：

開国開港・・・1854=36歳：*老中阿部正弘に抜擢され、目付となる。

_海防・軍事・外交の情勢認識において第一人者といわれ、講武所・蕃書調所の設置、海軍伝習所開設などに関係した。ペリー来航後、開国論の立場で老中堀田正睦佐助けて、米総領事ハリスと交渉し、通商条約の締結に努める。

五ヶ国条約・1858=40歳：

*条約の勅許をもとめて上洛する堀田に同行し、公卿の間に開国の必要性を説くも失敗。井伊直弼が大老となり調印を決すると幕府代表の1人として署名。直後より外国奉行となり活躍したが、將軍継嗣問題が起り、井伊大老は紀州藩の徳川慶福に決めて一橋慶喜を推した一派を処分、忠震もその一派として2か月にして作事奉行に左遷され、

安政の大獄・1859=41歳：

_さらに、官位を奪われて蟄居を命ぜられ、

桜田門外変・1860=42歳：

遣欧使節・・・1861=43歳：_没した。